

Medical Center for Student Health

保健管理センターだより



傷の治療に湿潤療法・・・ じくじく状態で早く治す！

ケガをした時、傷を水道水や生理食塩水でよく洗った後、消毒せずに、軟膏（白色ワセリン）や創傷被覆材（ハイドロコロイドドレッシング材）（図1）、ラップなどで覆い、湿った状態を保って治す方法（湿潤療法）が広まってきています。従来のように、傷を消毒し、ガーゼを当て、乾燥させて治す方法に比べて、痛みが少なく、傷の治りも早くてきれい、とされています。

● なぜ消毒は良くないの？

皮膚にはもともと“常在菌”といわれる細菌が存在し、消毒をしても数時間後には元に戻り、皮膚を完全な無菌状態に保つことは不可能です。また、その“常在菌”だけで傷が化膿することはありません。

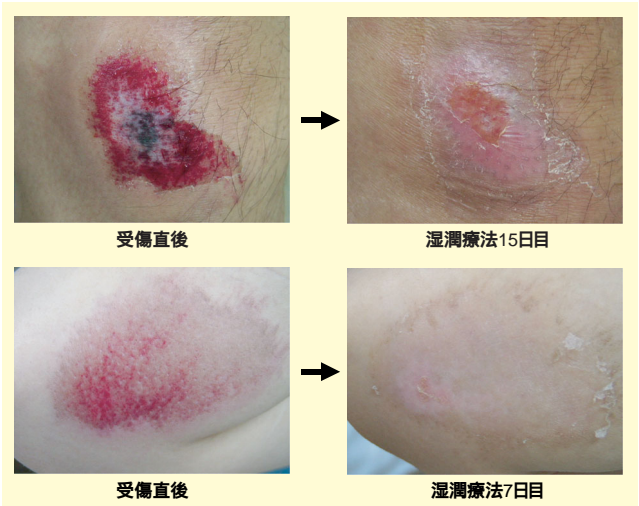
一方、消毒をすると、傷を治そうと頑張っている皮膚の細胞までも殺してしまいます。つまり消毒は、傷を治して元の状態に戻そうとしている細胞を殺すだけで、殺菌には役立たないということなのです。もちろん全ての場合において消毒が良くないというわけではありませんが、ケガをした時、最も大切なことは、できるだけ早く水道水や生理食塩水でよく洗うことなのです。

● カサブタは傷が治ってきている証拠？

では、乾燥はなぜ良くないのでしょうか。これも消毒が概して良くないのと同じように、傷を治そうと頑張っている細胞が、乾燥によって死んでしまい、傷の治りが遅れるからなのです。傷が治る時、痂皮（いわゆるカサブタ）ができることがあります。これは必ずしも理想的な傷の治り方ではなく、湿潤療法で治した時にはカサブタはできません。

● 保健管理センターでは・・・

保健管理センターでも傷の手当てに湿潤療法を取り入れています。（図2）に示すように、いずれも痂皮（カサブタ）を作らず、きれ



（図2）湿潤療法による治療の例

受傷後に水道水でよく洗浄した後、消毒をせず、創傷被覆材を用いて湿潤療法を施した傷の経過。

いに治っていることがわかりでしょう。消毒しないので、消毒液が滲みて痛むこともなく、経過中の傷の痛みもほとんどありません。ただ、湿潤療法は、化膿している傷や、動物に咬まれた傷などには行うことができません。また、湿潤療法での経過中に痛みが強くなってきた時には、化膿している可能性がありますので、治療法を変更する必要があります。深い傷や大きな傷では病院や医院での外科的処置が必要になります。

昨年度（平成17年度）、保健管理センター「からだの健康相談」を利用された方は延べ6,924人で、そのうちケガで傷の手当てを受けた方は216人でした。ケガの原因としてはバイクによる転倒事故が多いようです。皆さんもくれぐれも気を付けて・・・ケガをした時には傷の水洗いを充分にしてから、できるだけ早く保健管理センターや病院・医院を受診してください。

参考文献
Dermatol Surg 28: 210-214, 2002
夏井睦: これからの創傷治療, 医学書院, 東京, 2004
穴澤貞夫 (監修): 改訂ドレッシング; 新しい創傷管理, へるす出版, 東京, 2005



（図1）湿潤療法に用いる軟膏（白色ワセリン）（左）と創傷被覆材（ハイドロコロイドドレッシング材）

お問い合わせ

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
神戸大学保健管理センター ☎078-803-5245

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町 5-1-1
神戸大学保健管理センター深江分室 ☎078-431-6232

保健管理センターだより 69
（神戸大学広報誌「六甲ひろば」からひき続き連載）
保健管理センターの詳細につきましては、保健管理センターホームページでも案内しています。
<http://www.kobe-u.ac.jp/medicalc/index-j.html>